中原　泉
一枚の写真
49

上越新幹線　東京―新潟全線開通

本学の第二歯学部が新潟市に選ばれた理由の一つは，近い将来，東京―新潟間に新幹線がつながることであった。そうなれば新潟は，関東圏に接して東京にもっとも近いローカルになる。歯学部と新潟歯学部は，遠すぎても近すぎてもいけないのだ。

当時，上越線は上野―新潟間４時間10分で，揺れが激しくクタクタになる。開校してから新潟の教授方が幾度か，越後湯沢辺りで大雪に立往生し，炊き出しのお握りを配られた。運よく私はその体験は免れたが，笑い話にもならない。

新潟歯学部開校の前年の昭和46年（1971）11月に，新幹線工事は着工していた。最初の卒業生がでる頃には，乗車できるだろうと期待した。それが遅れに遅れて昭和57年（1982）11月15日に，新潟―大宮間が暫定開業した。大宮駅で代替電車に乗り換えるのだが，乗客はみなホームを走って競って席取りした。そのうえ，代替電車は上野までで，そこで邪険に下ろされた。

上越新幹線は，国鉄分割民営化に伴ってJR東日本に移管され，昭和60年（1985）３月４日に大宮から上野まで延伸された。

前後するが，上越新幹線は県内の上越市と紛らわしいのだが，上越の上は上州の上と，越後の越を合わせたという。この路線には，万全の雪害対策が施された。当初，車内の窓辺にピース１本を立てても倒れないと，揺れのなさが褒めそやされた。

私は，平成３年（1991）４月に新潟歯学部長から学長に就いたので，新潟―東京の往復がはじまった。上野駅で下りて，公用車で飯田橋まで40分を要した。渋滞により１時間を越すことは，しばしばだった。それが３ヵ月足らずして，新幹線は同年６月20日に上野から延伸して，念願の東京駅に乗り入れた。

初めて東京駅周辺のビル群が車窓に迫り，東京駅ホームに吸い込まれていく瞬間の，湧きあがる歓喜は今も忘れない。東京―新潟間が全線開通したのは，新潟歯学部開校から足掛け20年目であった。

東京―新潟を100分で結ぶ，というのがJRの謳い文句であったが，それは一日に片道一便しかなかった。とはいえ，東京駅から飯田橋まで，遅滞なく15分で着くのは有りがたかった。それから，私の東京―新潟の往復の日々がはじまった。

（写真：上越新幹線が全通した平成３年６月20日のJRポスター）

（※今号は，『中原　泉　回顧記録』より転載）